

東京中部間連系設備に係る広域系統整備計画
佐久間東幹線（山線）他増強工事における
4月以降の状況について（報告）

2023年5月29日
広域系統整備委員会
コスト等検証小委員会事務局

- 東京中部間連系設備に係る広域系統整備計画のうち、電源開発NWが事業実施主体である佐久間東幹線（山線）他増強工事については、工事費増額を受けた本年3月までの検証により、見直し後の概略工事費を1,430億円（2023年3月時点）と示したところ。
- ただし、4月以降も、他工区はもとより先行工区も更なる精査が必要となることから、今後も継続的に確認する必要がある。
- また、検証で示された将来想定されるコスト増要因が顕在化し、その増額が将来リスク発現時の概算工事費（1,534億円）内に収まる場合は、工事費増額を把握した時点でまず速やかに広域機関に報告の上、事案に応じて事前又は事後にコスト小委に諮ることとしている。

■ 佐久間東幹線（山線）他増強工事の工事費増額に関する検証結果について（検証取りまとめ）（2023/3/27）

8. 今後の継続的な確認について

今般の検証において、限られた時間の中で一般送配電事業者の協力の下、コスト低減を行ってきた。ただし、先行工区について一定程度のコスト低減を提案したに留まっており、他工区はもとより先行工区も更なる精査が必要となる。

（略）…まず基本的な対応として、今後のコスト低減策の反映については事業実施主体である電発NWが自ら精査した上で、各一般送配電事業者の協力も仰ぎながら、広域機関にて確認することで本整備計画を進めていくこととしたい。

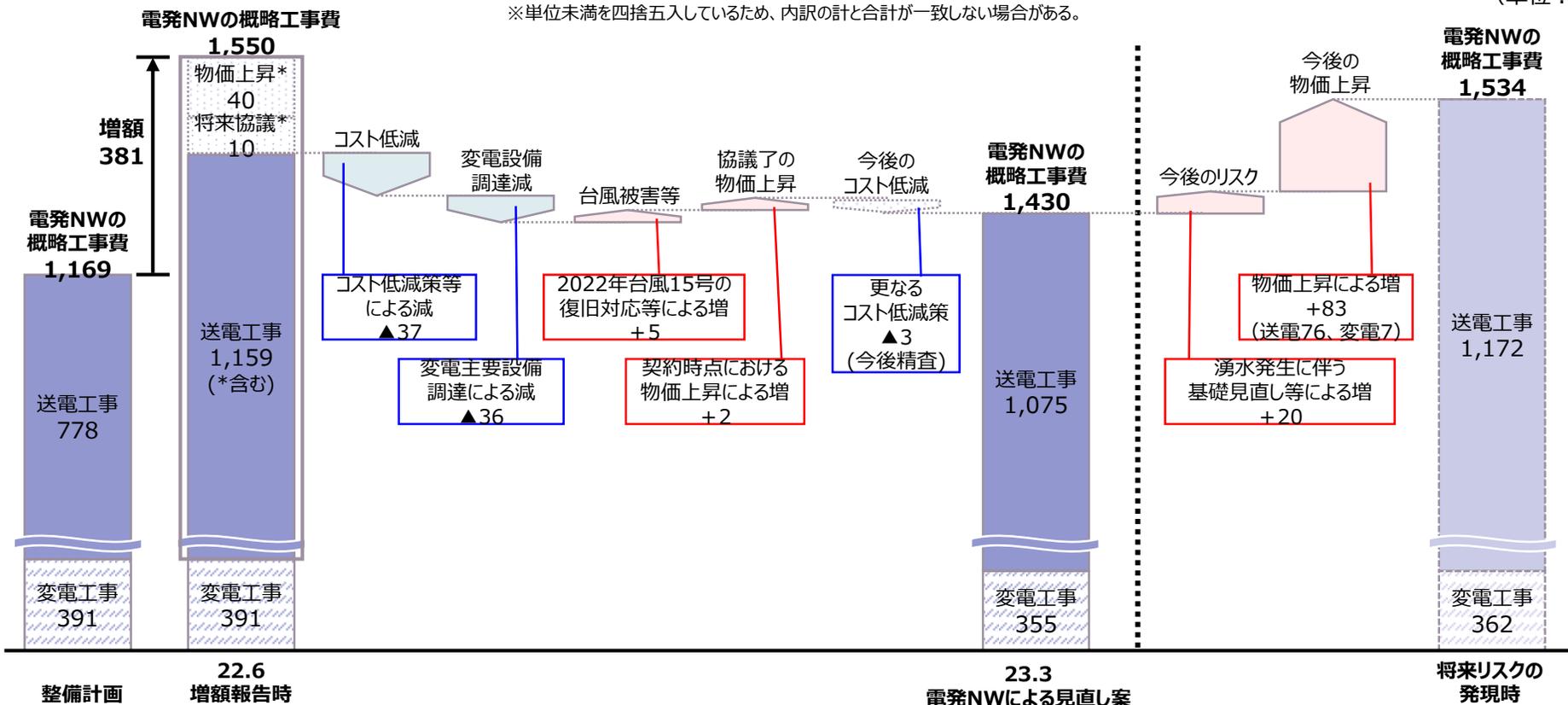
また、今後のコスト低減についても、現地に入る中で現場での工夫の余地がないか、電発NWがしっかり検討する仕組みを構築する必要がある。

なお、今後避けられない工事費増額が発生する可能性もあり、その都度、コスト小委にて審議すれば工事の遅延につながる恐れもある。

既に明示している工事費増額の可能性の中で、例えば保安林解除の手続きにおいて必要な工事を求められる可能性はまだ残っている。このため、交渉の結果、工事費増額が不可避である場合など、今回の検証で示された将来想定されるコスト増要因が顕在化し、その増額が将来リスク発現時の概算工事費内に収まる場合は、工事の遅延とならないよう必ずしもコスト小委での事前承認までは必須としないものの、工事費増額を把握した時点でまず速やかに広域機関に報告の上、事案に応じて事前又は事後にコスト小委に諮ることとする。

- 電源開発NWから4・5月分の発注による工事費増減の状況について報告があった。その内容は、物価上昇等により将来想定されるコスト増要因が顕在化したため、見直し後の概略工事費1,430億円を上回ることになるが、将来リスク発現時の概算工事費1,534億円内には収まる見込みとのことであった。事務局にてその詳細を確認したため、本日ご報告する。
- また、見直し後の概略工事費を上回る状況であることを踏まえ、現時点で電源開発NWが検討しているコスト低減に向けた取組状況等についても、あわせてご報告する。

※工事費には地内整備分を含む。なお、送電工事は佐久間東幹線（山線）他増強工事、変電工事は新佐久間FC新設工事をいう。（単位：億円）
 ※単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

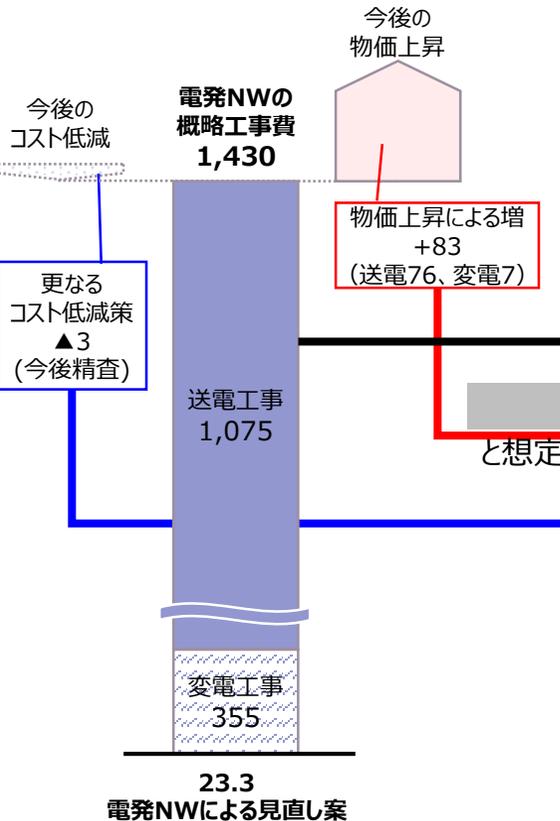


請負工事（準備工事）の増額について（5月発注分）

- 5月発注の請負工事費（準備工事※）について、見直し後の工事費1,430億円では 億円としていたところ、 億円（ 億円）になる見込みとなった。
- これは見直し後の工事費1,430億円の外数としていた将来リスクのうち、労務費の物価上昇額が確定したことで 億円の増額となった一方、1,430億円の内数としていた電源開発NWによる更なるコスト低減策（▲3億円）に 億円の減額を追加したことによるものであることを確認した。

※工事用道路（1・2・14工区）、伐採工事（1・2・8・14工区）、資材置き場の設置工事（8工区）

単位：億円

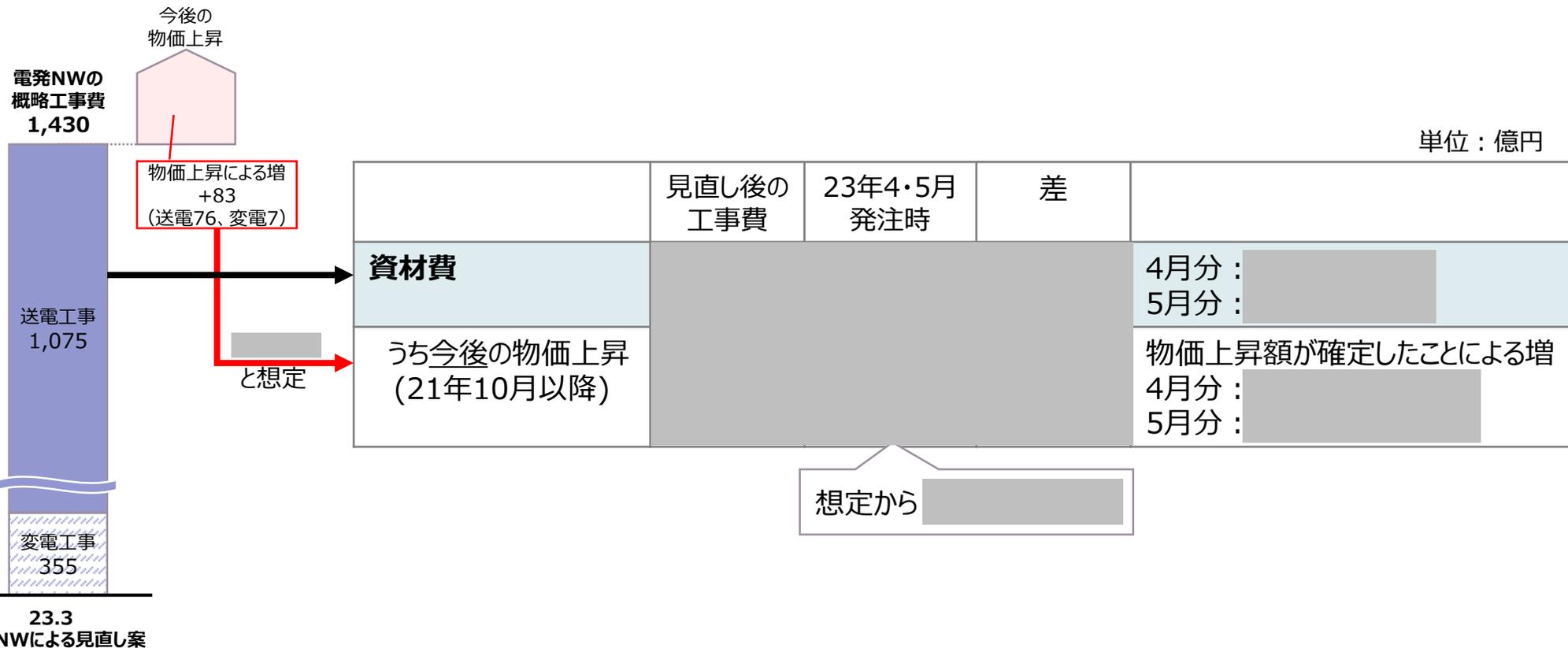


	見直し後の工事費	23年5月発注時	差	
請負工事費				5月分
うち今後の物価上昇 (21年10月以降)				労務費の物価上昇額*が確定したことによる増
うち今後のコスト低減				伐採工事の箇所数の削減による減

* 22年1-3月コスト小委受審時（21年10月時点の諸元）の公共工事設計労務単価から算定した額（過去推移から電源開発NWが試算）から、23年5月発注時までの物価上昇を補正して施工業者と契約。毎年3月公表の公共工事設計労務単価を用いて補正するため、今年度の労務費の物価上昇補正率は23年3月の検証とりまとめ時の試算から変わらない。

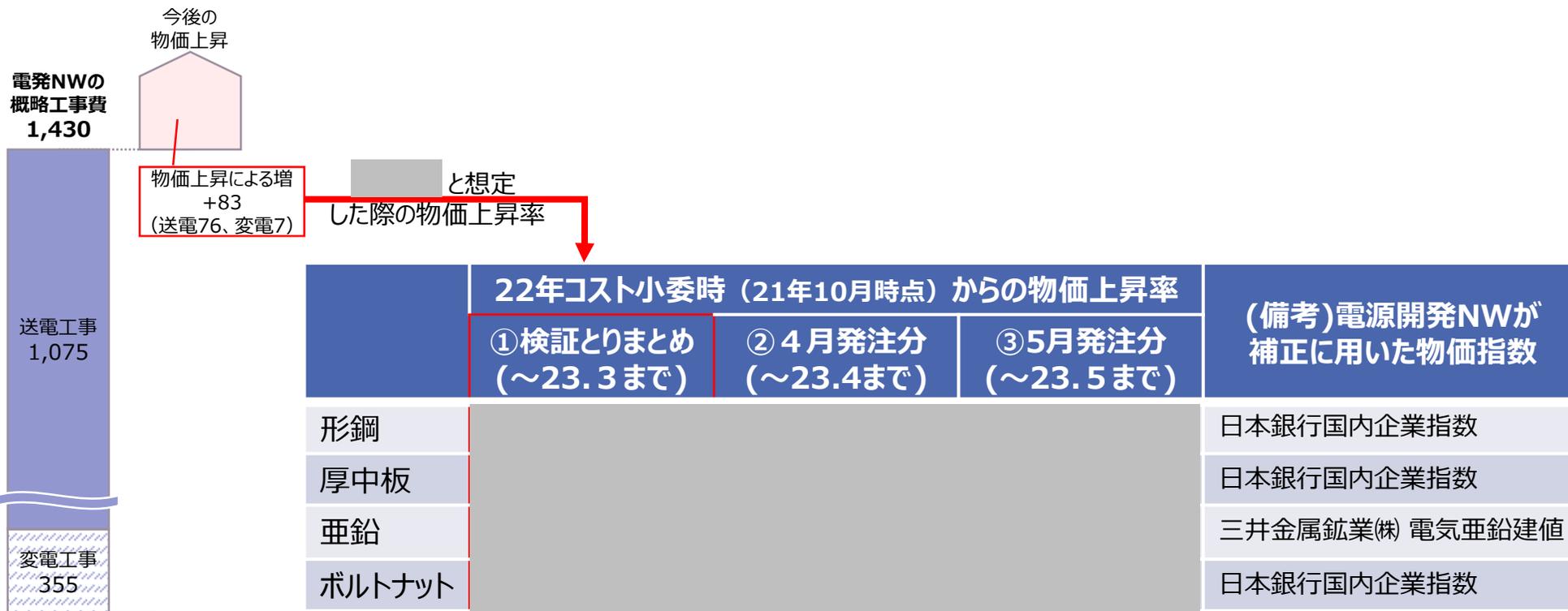
資材費（鉄塔材）の増額について（4・5月発注分）

- 4・5月発注の資材費（鉄塔材）について、見直し後の工事費1,430億円では [] 億円としていたところ、 [] 億円（ [] 億円）になる見込みとなった。
- これは見直し後の工事費1,430億円の外数としていた将来リスクのうち、鉄塔材の物価上昇額が確定したためであることを確認した。



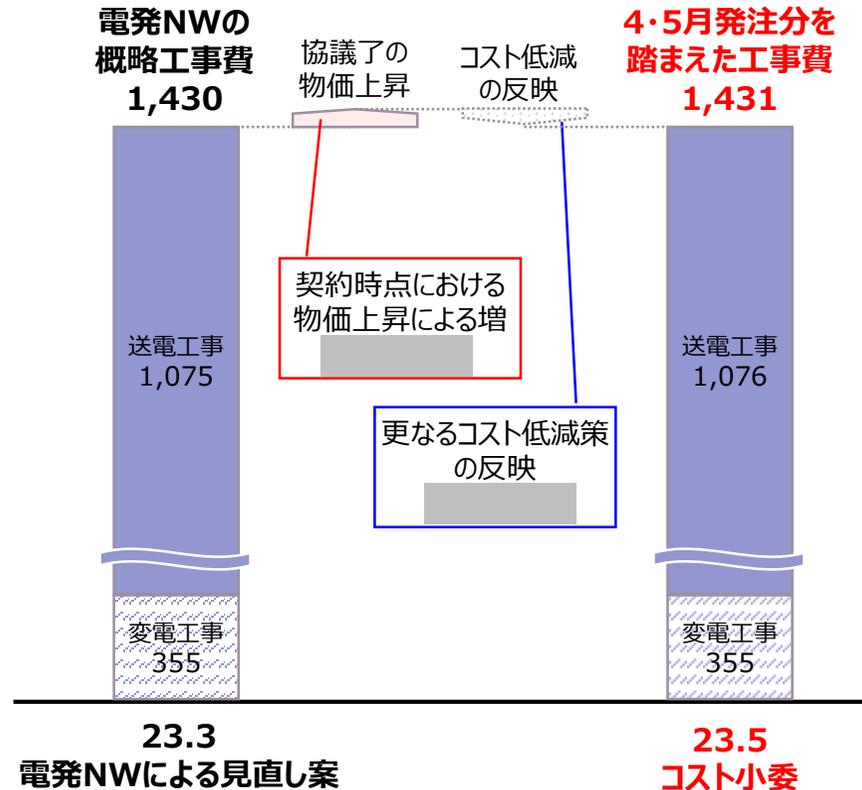
(参考) 鉄塔材の物価上昇の補正について

- 電源開発NWでは、予報契約時の鉄塔材の単価について、発注時点までの物価上昇率を踏まえ単価を補正した上で発注することとしている。
- 検証とりまとめにおける今後の物価上昇額（+83億円）では、4・5月発注分の資材費（鉄塔材）を①を踏まえて 〇 億円と試算していたところ、②・③のとおり 〇 億円となった。

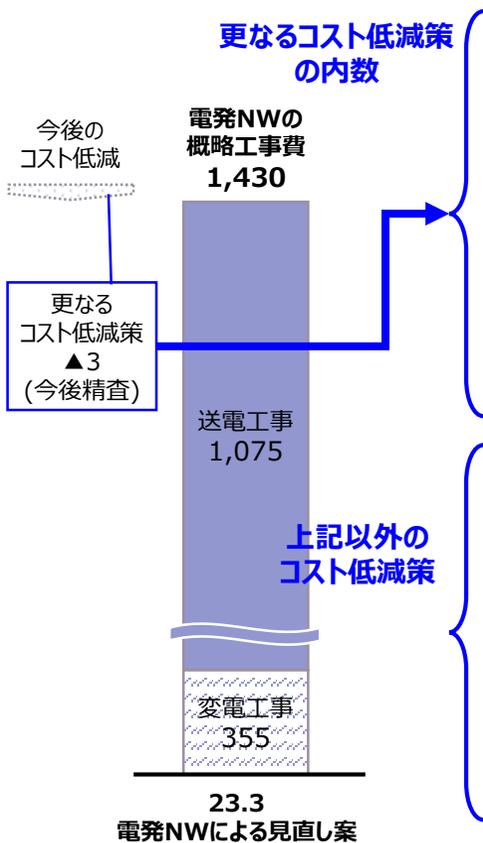


23.3
電発NWによる見直し案

- 4・5月の請負工事及び資材の発注により、検証とりまとめ時 (2023年3月時点) と比べて新たに協議了となった物価上昇 億円 (請負工事 億円、資材 億円)、新たに行ったコスト低減策 億円がそれぞれ追加となった。
- その結果、4・5月発注分を踏まえた電源開発NWの工事費は1,431億円であり、引き続き、電源開発NWに対してコスト低減に向けた不断の努力を求めることとしたい。



- 電源開発NWでは、全体工事費の低減に向けて検証とりまとめで示したコスト低減策（▲3億円）の精査に加え、それ以外にも更なるコスト低減に向けた取組ができないか検討を進めているところ。
- その取組状況については、今後のコスト小委においても引き続き確認していくこととしたい。



更なるコスト低減に向けた検討内容	検討状況	小委での報告状況
	検討済	報告済み※
	検討中	報告済み※
	検討中	報告済み※
	検討中	今回初報告

※23年3月のコスト小委でコスト低減策として項目を報告していたもの

- 本日は、本年3月の検証取りまとめを踏まえ、4・5月発注の請負工事費及び資材費について、物価上昇やコスト低減策による工事費増減の状況について確認した。
- その結果、4・5月発注分を踏まえた現時点の電源開発NWの工事費は1,431億円であり、検証とりまとめ時から+1億円の増加となった。
- 電源開発NWでは、現在もコスト低減策の検討・反映を進めている状況であり、その進捗等については今後も本小委員会にて確認していくとともに、引き続き、電源開発NWに対してコスト低減に向けた不断の努力を求めることとしたい。